



Nagasaki Peace Forum  
2025



## 令和 7 年度 青少年ピースフォーラム 報告書

長崎市 / 公益財団法人 長崎平和推進協会



## 1 概要

「青少年ピースフォーラム」は、全国の自治体が「平和使節団」として派遣する青少年の皆さんと長崎の青少年とが、一緒に被爆の実相や平和の尊さを学習し、交流を深めることで平和意識の高揚を図ることを目的としています。平成5年度に長崎市が開始し、令和元年度より公益財団法人 長崎平和推進協会が長崎市から委託を受けて実施しています。フォーラムの主な企画及び当日の進行は、長崎市の青少年ピースボランティアが担っています。

## 2 参加自治体・参加者数

**34 自治体：参加者 361 名 + 引率者等 116 名（計 477 名） + 姉妹都市招聘事業参加者 2 名**

北海道函館市（4名）	北海道旭川市（2名）	宮城県美里町（12名）
福島県郡山市（28名）	福島県いわき市（30名）	茨城県龍ヶ崎市（12名）
茨城県つくば市（6名）	千葉県松戸市（22名）	千葉県佐倉市（24名）
千葉県習志野市（9名）	千葉県鎌ヶ谷市（5名）	東京都千代田区（7名）
東京都港区（14名）	東京都品川区（6名）	東京都板橋区（22名）
東京都武蔵野市（14名）	神奈川県藤沢市（24名）	長野県中野市（3名）
岐阜県美濃加茂市（8名）	岐阜県飛騨市（8名）	岐阜県川辺町（5名）
京都府福知山市（6名）	京都府宇治田原町（4名）	大阪府箕面市（5名）
広島市広島市（5名）	福岡県北九州市（18名）	大分県豊後大野市（7名）
宮崎県日向市（7名）	沖縄県那覇市（6名）	沖縄県石垣市（2名）
沖縄県沖縄市（19名）	沖縄県北谷町（9名）	沖縄県北中城村（4名）
沖縄県中城村（4名）	アメリカ合衆国セントポール市（2名）	（ ）内は参加者数

長崎市青少年ピースボランティア 150名（8日140名・9日128名）

●セントポール市は、長崎市の姉妹都市招聘事業での参加（開会行事・意見交換のみ）

参加者内訳	小学生	中学生	高校生	大学生	その他	合計
自治体等からの参加者 （姉妹都市招聘事業参加者含む）	17	288	49	6	3	363
青少年ピースボランティア			107	29	14	150
合計	17	288	156	35	17	513

### 3 プログラム

時 間		内 容
<b>1 日 目</b> <b>8 月 8 日</b> <b>( 金 )</b>	14:00 ~15:15	<b>開会行事</b> (34 自治体・361 名+セントポール市 2 名) 長崎市長挨拶 開会宣言 被爆体験講話 (三瀬 清一郎 氏) <span style="float: right;">【平和会館ホール】</span>
	15:30 ~17:30	<b>平和学習「被爆の実相を伝える」</b> A コース (16 自治体・171 名参加) ①室内学習 (被爆の実相・戦時下を疑似体験) ②こぢんまりフィールドワーク ③共通学習 (核兵器の現状を知ろう) <span style="float: right;">【平和会館ホール・原爆資料館周辺】</span> B コース (18 自治体・190 名) ①室内学習 (被爆の実相) ②コース別フィールドワーク 平和公園コース (8 自治体・69 名) 浦上天主堂コース (8 自治体・88 名) 山王神社コース (2 自治体・33 名) <span style="float: right;">【原爆資料館周辺】</span>
	終了後 (希望者)	17:45~18:15 <b>平和の灯 キャンドル絵付け体験</b> (4 自治体・57 名) <span style="float: right;">【平和会館ホール】</span> 18:00~19:30 <b>交流会</b> (18 自治体・207 名) <span style="float: right;">【長崎新聞アストピアホール】</span>
<b>2 日 目</b> <b>8 月 9 日</b> <b>( 土 )</b>	午前中	<b>長崎原爆犠牲者慰霊平和祈念式典への参列</b> 平和公園 (23 自治体・200 名) / 出島メッセ長崎 <b>長崎市内中学校の平和集会への参加</b> (3 自治体・39 名)
	14:00 ~16:00	<b>意見交換</b> (29 自治体・293 名+セントポール市 2 名) アイスブレイク・意見交換・全体発表 閉会行事 (修了証書授与など) <span style="float: right;">【出島メッセ長崎】</span>
	16:15 ~17:00	被爆 80 周年 特別企画 <b>マレーシア元首相 マハティール・ビン・モハメド氏による            特別講演</b> (21 自治体・208 名) <span style="float: right;">【出島メッセ長崎】</span>



被爆体験講話



市長挨拶  
(代読)

## 8月8日(金) 青少年ピースフォーラム 1日目

開会行事：長崎市長挨拶

(代読：長崎市 原爆被爆対策部被爆継承課 課長)

開会宣言 (青少年ピースボランティア)

被爆体験講話 (三瀬 清一郎 氏)

平和学習「被爆の実相を伝える」

【司会・進行：青少年ピースボランティア】



司会進行

参加者の皆さんと私たち  
青少年ピースボランティアの  
出会いを大切にしながら  
共に原爆や平和について  
学びを深めて  
有意義な時間にしましょう！



開会宣言

## 被爆体験講話：三瀬 清一郎（被爆当時 10 歳）

伊良林国民学校 5 年生の時、爆心地から 3.6km の自宅内で被爆。家族 8 名は無事だったが、家の中は惨憺たる有様、後片付けに追われた。

数日後、学校が気に入り様子を見に行くと、想像を絶する現場。瀕死の人、大火傷でリヤカーで運ばれてくる人、「水を、水を」と叫び、苦しきのあまり「殺してくれ、殺してくれ」の声。救護が間に合わず、次々と亡くなり、校庭で焼かれる様を嫌というほど見せられた。戦争の悲惨さを伝えていきたい。



### 参加者の声：被爆体験講話を聴いて

- ・今回、三瀬さんのお話をお聞きして、特に印象に残っているのが「明日、生きているか」という恐怖が毎日続いていた、ということです。  
今の私には安心して明日が繰り返されているけれど、それは決して当たり前のことではなく、戦後から積み上げてきた想いが「平和」をつくっているのだと改めて感じました。
- ・三瀬さんの 2 学期に友だちと会った時「よう生きとったねえ、命があってよかった」という会話をしたと聞いて、私たちは考えられないことだし、その会話自体が、戦争がどれほど日常を脅かし、自由を奪ったのか分かった。
- ・被爆された方から実際にお話を聞いている、という事実が、より、今生きていることに感謝することや、命の尊さというものを肌で感じる事ができたと思います。
- ・学校の授業で学習したり、ニュースを見たりして原爆について少し知っていたけれど、実際の体験談を聞いて、「日本」で昔、本当に起こったのだと改めて感じました。
- ・実際に原爆を体験した人の講話は、ニュースやネットでは知ることのできない悲惨な当時の状況を知ることができた。特に、食糧困難の件では、自分たちがいつも当たり前のように食べているさつまいもがごちそうだと聞いて、とても驚きました。
- ・今、自分たちが生きていることがどれだけ幸せなことか、平和とは「当たり前の生活」が送れているという単純なことだけど、意外と難しいと感じました。
- ・被爆体験を語りたくないという方の意見もある中、自分たちに伝えてくれたことがありがたいと思ったし、伝えていかなきゃとも思った。
- ・インターネットなどで被爆した方の話を読むよりも、実際にその人と対面して話を聞くことによってより原爆は恐ろしいものだなと感じた。
- ・戦争は終われば全てが幸せというわけではなく、戦争が終わっても、生涯に渡って不安を抱くものなので、絶対に核兵器は世界からなくならなければならない。と感じ、今の核兵器は 80 年前の核兵器より数千倍も威力が増しているというのが本当に辛くて悲しいと思いました。
- ・「平和は人類共通の世界遺産」と聞き、形はないものだけど世界にある建造物より 1 番大切なものだとして改めて考えさせられました。
- ・「コミュニケーションがあれば、世界は丸くなる」。互いの国の伝えたいことだけはしっかり理解し合うことができれば、対抗心は生まれないのかもしれない。

## 平和学習「被爆の実相を伝える」 2コースに分かれての学習

### A コース

Aコースでは、「室内学習」と、会場周辺を歩く「こぢんまりフィールドワーク」を実施しています。

室内学習では、長崎原爆の概要や核兵器の現状についての説明の他、“もし今、戦争が起こったら、どのようなことが起こるのか？”を考える「戦時下を疑似体験」を実施しました。照明や音・写真・ワークを組み合わせ、空襲の様子や、戦況の悪化によって「大切なもの」などが奪われていく状況など戦時中の日常を想像するプログラムです。こぢんまりフィールドワークでは、国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館や原爆落下中心地の他、周辺の慰霊碑等を見学しました。



#### 長崎原爆の概要

原爆によって長崎の町がどうなったのか、威力や被害について、改めて紹介。



#### 戦時下を疑似体験

戦況の悪化によって「大切なもの」を手放さなければならなくなる状況を想像する。



#### 核兵器の現状

なぜ今も核兵器はなくならないのか？  
現在の核兵器の状況を紹介。





## 【こぢんまりフィールドワーク コース】

国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館・原爆落下中心地・浦上天主堂遺壁・下の川  
追悼 長崎原爆朝鮮人犠牲者の碑

### 参加者の声：平和学習に参加して(Aコース)

#### 【室内学習】

- ・戦争の体験が心に残った。最初の質問ではカードは一枚もなくならなくて、安心していましたが、次の質問でごっそりなくなってしまい、これがただの紙ではなく人やものと考えたらゾッとした。
- ・疑似体験で、自分の身に置き換えることで、自分事として考えることができた。
- ・自分の大切なものが失われていく感覚を体験することができた。戦時下の人たちは、どれだけ辛い思いをしていたのかを、少しではあるけど、理解できた。すごく良い経験になった。
- ・室内学習で行った原爆投下の疑似体験は、とても印象的でした。たいせつな人、もの、場所がどんどん消えてなくなってしまう苦しさを感じました。当時の方々は、さらに辛い思いをしていたと想像すると、胸が痛みます。原爆について、考えるための重要な体験だったと思っています。
- ・原子爆弾が今どうなっているのか、核廃絶のために何をしているか知ることができてよかった。
- ・世界がこれから平和になるためには、自分たちができることから始めるのが大切だと思いました。

#### 【こぢんまりフィールドワーク】

- ・追悼平和祈念館に訪れた際、水の音が館内どこにいても聞こえるという設計に感嘆した。死没者名簿に載った方々の顔が見られるスペースが非常に良かった。
- ・フィールドワークをする中で、周辺に戦争の歴史が残っているんだと改めて分かりました。たくさんの方の名簿があると聞き、たくさんの方が死んでしまった戦争は、あってはならないと思いました。
- ・ピースボランティアの方のガイドがとても分かりやすく、話しかけやすかった。歩きながらちょっとした雑談をするのも楽しかった。とても良い時間を過ごせた。
- ・初めて聞いた・見たこと（ところ）に行けてよかったです。持ち帰って、学校の人や次の世代に伝えていきたいです。
- ・当時、どのような暮らしを人々がしていたのか、原爆はどのくらいの威力だったのかなど、実際に場所を見ることで、少しだけ自分が体験したようだったので、良かったです。
- ・一ヶ月で草木が生え出した現実に対して驚いた。知らないことを知れたのでとてもよかった。

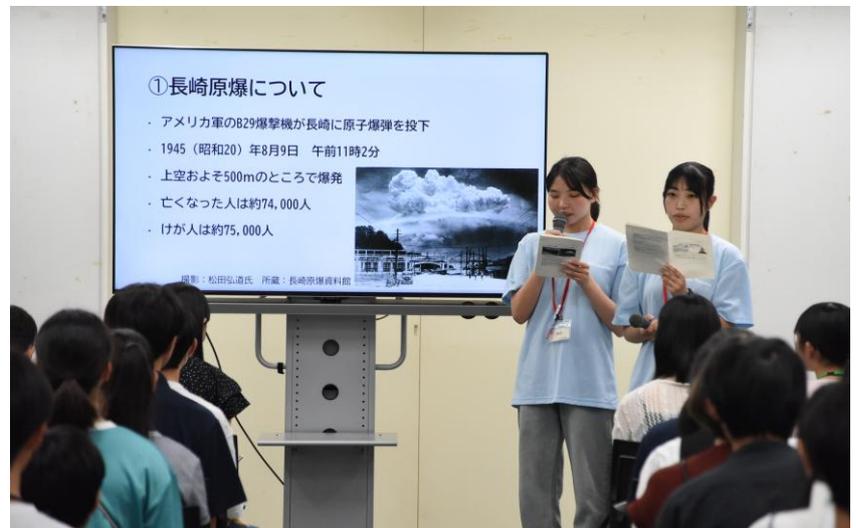
## 平和学習「被爆の実相を伝える」 2コースに分かれての学習

### B コース

Bコースは、実際に被爆した「被爆建造物等」や、各所にある慰霊碑等を巡るフィールドワークを中心に実施しています。

フィールドワークに出発する前に、長崎原爆の概要について改めて学習した後、平和公園コース・浦上天主堂コース・山王神社コースの3つのコースに分かれて活動しました。実際にその場所を訪れて、被爆建造物等に今も残る、原爆による熱線や爆風の痕跡を見たり、被爆後に撮影された写真と現在の様子を見比べたりすることで、被爆当時の様子を想像しました。

天候が心配されましたが、見学中は、傘はほぼ差さずにめぐる事が出来ました。



### ●平和公園コース

**爆心地公園**：原爆落下中心地碑、浦上天主堂の遺壁、被爆当時の地層、下の川

**平和公園**：平和の泉、長崎刑務所浦上刑務支所跡、平和祈念像、平和のモニュメント

### ●浦上天主堂コース

**浦上天主堂**：浦上天主堂、鐘楼ドーム

**爆心地公園**：原爆落下中心地碑、浦上天主堂の遺壁、被爆当時の地層、下の川

### ●山王神社コース

**長崎大学医学部**：ゲストハウス、原爆犠牲者名碑、角尾晋学長の像、旧正門門柱

**山王神社**：一本柱鳥居、被爆クスノキ、坂本町民原子爆弾殉難者之碑



## 参加者の声：平和学習に参加して(Bコース)

- ・実際に原爆が落下された場所から歩いて、どの距離でどんな被害があったのかを見て、原爆による影響を理解することができた。
- ・インターネットでは知り得ることができない情報、どの建築物・像にどんな物語があったのか、根本的に実話を聞けて、すごく勉強になった。
- ・実際に被爆した建物の一部がそのまま残っていて、そのものたちが戦争（原爆）の恐ろしさや悲惨さを物語っているようで、画像と実物では違いが激しく、驚きました。
- ・色々な被爆した物などを見られて、感動した。がれきや骨などが、今、自分たちが歩いている道や泊まっている町（長崎）の下に埋まっていると思うと、命の大切さをもっと感じるし、二度とあってはいけないと思う。
- ・良かった点は、同世代の人から説明を受け、コミュニケーションを積極的にとれたこと。
- ・実際に目で見るという大切なこと。記憶に残りやすいことができて、とても良かった。説明も分かりやすかった。
- ・私が特に印象に残ったのは、被爆当時の地層です。ガラスや瓶があって、とても生活感があって、本当にこんなことがあったのだと衝撃を受けたし、感慨深いなと思いました。こんな体験ができたのは、とても良い経験になりました。
- ・実際に行って見てみることで、今まで知っていた情報に加えて、新しいことも知ることができてよかった。
- ・フィールドワークでは、長崎の平和祈念像のそれぞれの腕や顔の意味を学んで、それらの意味がどれひとつ欠けてもいけないと思った。
- ・被爆してから、80年も綺麗な状態で残っていることに驚きました。何千度の熱線を浴びてもなお残っているのは、被爆者の方々の思いが詰まっている。
- ・実際に見ることによって改めて感じることや心にくるものが多くありました。長崎が復興している中にもいまでもわかるような小さな場所でもどれだけ原爆が被害をもたらしたのかよく分かりました。

## フォーラム 1日目 終了後

1日目のプログラム終了後の過ごし方は、参加団体によって異なります。一部の参加団体は、毎年9月に原爆落下中心地で開催される「平和の灯」で灯するためのキャンドルへの絵付け体験や、青少年ピースボランティアも交えた交流会に参加しました。

### 平和の灯 キャンドル絵付け体験

4自治体57名が参加しました。それぞれに、平和を願うメッセージやイラストを書き込み、色とりどりのキャンドルを完成させました。完成したキャンドルは、9月27日に開催された「平和の灯」で、原爆落下中心地を囲むように一つ一つ並べられ、火が灯されました。



### 交流会

18自治体207名に青少年ピースボランティアが加わり、約300名で「交流会」を行いました。各テーブルには、色々な自治体からの参加者が集まり、自己紹介をしたり、食事をしながらおしゃべりしたりすることで、交流を深めました。青少年ピースボランティアの有志メンバーが、バンド演奏で場を盛り上げました。



8月9日  
午前11時02分

長崎で迎える8月9日11時2分。  
長崎原爆犠牲者慰霊平和祈念式典に参列したり、  
長崎市内の中学校での平和集会に参加したりと、  
さまざまに過ごしました。



写真提供：長崎市



写真提供：長崎市



## 平和公園

朝から土砂降りでしたが、開式直前に止み、フォーラム参加者を含む2,650名が参列しました。青少年ピースボランティアも、おしぼり配りなどをお手伝いしました。

## 出島メッセ長崎 (中継会場)



写真提供：長崎市



写真提供：長崎市

出島メッセ長崎では、式典の様子が同時中継されました。場内に設置された献花台には、多くの方が花を手向けていました。長崎原爆資料館ホールの中継会場と合わせて1,545名が参列しました。



写真提供：いわき市



写真提供：いわき市

## 長崎市立中学校での 平和集会

3自治体39名は、長崎市内の中学校（桜馬場・淵・小江原）で平和集会に参加し、交流を行いました。

# 8月9日（土） 青少年ピースフォーラム 2日目

アイスブレイク・意見交換・全体発表  
閉会行事

マハティール・ビン・モハメド氏 特別講演

【企画進行：青少年ピースボランティア】

## 意見交換「違うってどんなこと？違うって悪いこと？」



2日目の午後は、意見交換を行いました。参加者は10名程度のグループに分かれ、青少年ピースボランティアも一緒に、テーマについて考えます。

まずはアイスブレイク「NGワード自己紹介」で話しやすい場を作ってから、テーマに沿って話し合いました。どのような「違い」があるのか、その「違い」があることで何が起こるのか。3色の付箋を使って、模造紙に貼りながら意見を出し合い、様々な考え方や意見があることを学びました。最後に、3グループが代表して、話し合った内容を発表しました。



### テーマ：違うってどんなこと？違うって悪いこと？

- ①どのような「違い」があるか
- ②その「違い」によって、何が起きるのか





## ピースアート

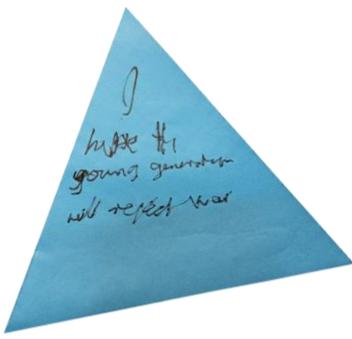
意見交換で感じたことや考えたことを班でまとめ、メッセージカードに書き込みました。このカードを集めて、ピースアートが完成しました。

「平和を実現するには無限（∞）の可能性がある」という思いを込め、青少年ピースボランティアがデザイン・作成しました。



### 参加者の声：意見交換に参加して

- ・話し合っただけに印象に残ったのは「違いから生まれるもの」です。差別やいじめは自分が一人として同じ人がいないから起こることだけど、それを逆手に取るとたくさんの個性を認め合える人になれば新たな発見もあり、おもしろいなと思いました！
- ・簡単そうで難しい質問だったが、考えがいがあった。
- ・「違い」があるからこそ、自分らしさが生まれるということ、今日初めて気付くことが出来た。私たちは「違い」に助けられ、時には傷つけられることもあるけど、その違いを認め合えれば、平和が訪れると思う。
- ・グループで出た「違いがあるからこそおもしろい」という意見がまさにそれで、顔・性格・話す言葉、すべてが違うからこそ、もっと相手について知りたいと思うし、もっと自分について伝えていきたいと思うからこそ、「違い」にこれからもっと触れ合っていきたいなと思いました。
- ・色々な違いがあることは良いし、互いを尊重することで、より平和な世の中を築くことができるということを学びました。
- ・自分では出てこない意見を班の中でもたくさん聞いて、別の班でも全然違う意見が出ていて人それぞれの意見がたくさんあっていいなと思った。
- ・私はなかなか「違い」の良いところが出てきませんでした。でも他の子が「人と違うから面白いし、魅力を感じる」と言っていて、私にはなかった発想を知ることができて、嬉しかったです。



被爆 80 周年 特別企画

## マレーシア元首相

### マハティール・ビン・モハメド氏 特別講演

被爆 80 周年での開催となった今回、マレーシア元首相のマハティール・ビン・モハメド氏による特別講演を行いました。モハメド氏は御年 100 歳。通訳を介しながら、マレーシアから見た二度の世界大戦や自国の植民地の歴史、現在のロシアとウクライナなどの国同士の関係、これらの問題を解決するにはどうしたらいいか、など多岐にわたってお話ししてくださいました。

講演後には「I hope the young generation will reject war (若い世代の皆さんが、戦争を拒否してくれることを願います)」と直筆でメッセージをいただき、ピースアートの中心を飾りました。(ページ上部の三角形が直筆メッセージです)



#### 参加者の声：特別講演に参加して

- ・教科書とかじゃ絶対に知れない、書かれていないことを話していらっしやっただので、この講演に参加して良かったなと思いました。
- ・第二次世界大戦からの実体験を話してもらいました。国際連合の現状や、ASEAN などの知らない知識も知ることができて、すごくよい経験でした。
- ・世界から見たら、日本が敵であることも分かった。やはり核はいけないと思った。
- ・「日本の侵略の下、生きざるを得なかった」という言葉が印象に残った。日本は被害者側という意識が日本の心の根底にあると思うが、それは嘘だと強く突き付けられた。世界との関わりを知るきっかけになった。
- ・普段聞けない、外国の方の証言を聞くことができず良かったです。中国と台湾の関係や、ウクライナとロシアの関係にも同じことが言えるとお聞きして、とても驚きました。
- ・第一次世界大戦の直後からの多くの経験をたくさん語ってくださって、おもしろかったです。私たちは日本からの視点で”争いをやめよう”と訴えていましたが、また別の視点からの訴えが勉強になりました。
- ・マレーシアからの視点だったので、日本は原爆という観点から見たら被害を受けた側だけど、第一次世界大戦という観点で見たら、侵略した側だということに、気付かされました。物事を多面的に見ることの必要性を感じました。
- ・日本国内だけでなく、世界に目を向けることが出来ました。どうしても日本にいて平和について学んでも日本のことしか考えられないので、世界の平和について学ぶことが出来て良かったです。
- ・少し難しかったけど、結局みんなたどりつくのが”戦争は絶対にしてはいけない”。これは世界共通の言葉だと思いました。
- ・翻訳の人に憧れた。第一世界大戦や第二次世界大戦について、調べてみようと思った。

## 4 アンケート集計結果

### 1：このフォーラムに参加して、被爆の実相や平和の尊さを学ぶことができましたか？

よくできた … 90.3%    できた … 7.1%    少しできた … 0%  
あまりできなかった … 0.6%    無回答 … 2%

### 2：2日目の意見交換では、自分の意見を発表できましたか？

よくできた … 46%    できた … 31%    少しできた … 11%  
あまりできなかった … 6%    無回答 … 6%



### 3：特別講演に参加してどうでしたか？

よくできた … 58%    できた … 25%    少しできた … 3%  
あまりできなかった … 10%    無回答 … 4%



### 4：他の自治体の参加者と仲良くなることができましたか？

よくできた … 57%    できた … 18%    少しできた … 8%  
あまりできなかった … 4%    無回答 … 13%

## 引率者の声

- ・被爆者の方の高齢化が進む中で、実際の体験談を拝聴させていただいたことは、参加した中学生には勿論ですが、引率者にとっても、大変貴重な体験となりました。（被爆体験講話）
- ・戦争によって日常がどのように変わったのか、戦争が終わった時にどう感じたのか、戦後も続く被爆者の苦労など、実際に戦争を経験されている方から生の声を聞くことができたのは大変貴重でした。（被爆体験講話）
- ・自分の足で被爆地へ行き、自分の目で見て、聞いて、学ぶことができ、子どもたちの得られるものもとても大きかったと思う。（平和学習）
- ・ピースボランティアの方々が、生徒に分かりやすく説明してくださり、とても良かったです。改善点を一つ挙げるとすれば、説明者ごとに声量や声の通りが異なり、野外という環境もあって聞こえづらい場面があったことです。（平和学習）
- ・ピースボランティアのファシリテーションのおかげで、各自が意見を言いやすかったり、お互い真剣に他の人の意見に耳を傾ける様子がみられて良かったです。（意見交換）
- ・活発に意見を出し、どの意見も肯定する雰囲気が出ていてとても良かった。またテーマが壮大すぎるものではなく、身近なことに設定されていたのも小学生でも意見を出しやすく、良かった。（意見交換）
- ・自国の被害の面だけを見つめるのではなく、加害の立場でもあったことにも目を向けるきっかけとなる講演だったと思います。（特別講演）
- ・全国から集まった同年代の方たちと意見交換や交流ができる貴重な体験となりました。
- ・高校生や大学生のピースボランティアの皆さんが、一生懸命平和を伝える姿が、中学生にとってとてもよい刺激になりました。ありがとうございました。



 0<sup>th</sup> since Aug. 9, 1945.



(公財)長崎平和推進協会

YouTube



Instagram



長崎市

長崎市の平和・原爆

Facebook



## 令和7年度 青少年ピースフォーラム 報告書

発行 (公財) 長崎平和推進協会

住所 〒852-8117

長崎市平野町7番8号

TEL 095-844-9922

FAX 095-844-9961

Mail keishou@peace-wing-n.or.jp